

■明詮 法相宗の僧。当代一流の学匠で、学説は後世まで重用された。

みょうせん

・ ・ ・ ・ ・ 789＝ 生。俗姓は大原氏で祖父は桜井王。左京の人。父は大原石本、母は橘氏。

平安京遷都・ 794＝ 5歳：

・ ・ ・ ・ ・ 798＝ 9歳：

早く父を、次いで母を失ったため出家して沙門となった。

初め元興寺の施厳法師について「法華経」や「最勝王経」の講義を受けたが、

その才が非凡であることを認められ、大智者たる仲継法師(律師、初め薬師寺に住し、のち本元興寺に移る)に預けられた。

桓武天皇没・ 806＝17歳：

伊予親王の変 807＝18歳：

薬子の変・ ・ 810＝21歳：

・ ・ ・ ・ ・ 816＝27歳：

嵯峨上皇・ ・ 823＝34歳：

桓武平氏始・ 825＝36歳：

・ ・ ・ ・ ・ 834＝45歳：

承和の変・ ・ 842＝53歳：

・ ・ ・ ・ ・ 843＝54歳：

・ ・ ・ ・ ・ 849＝60歳：

文徳天皇即位 850＝61歳：維摩会の講師、御斎会の講師を務め、清涼殿での「金光明経」講説の講師に法相宗を代表して選ばれ、他宗の代表を屈服させたので、仁明天皇は明詮を甚だ尊び、陪席の皇太子(のちの文徳天皇)を顧みて一代の聖教ことごとくこれにありと評したという。

・ ・ ・ ・ ・ 851＝62歳：

文徳天皇は先帝の遺詔により権律師に任じた。これより先、夢に見た弥勒像を写さんことを望み、みずから工匠に説明して像を造らせ、元興寺に別院を建ててこれを安置した。この頃、僧綱所には悪比丘が多く、別院建立を妬んで罪に陥れようと図り、寺中の僧供を用い私道場を建てたと難じ、使者8人に勘問させ、かつ東大・興福・大安諸寺の強力の者6十人に兵仗を帯びさせ、その院を壊却させようとした。明詮は別院建立は諸檀越の力によるものであると応答して少しも動ずる風はなかった。この時、権律師に任ずるとの宣命文が到来したため、悪比丘らは色を失って退散したという。この院はのち玄莫三蔵の風を慕って玉華院と名づけられた。

・ ・ ・ ・ ・ 852＝63歳：

円珍入唐・ ・ 853＝64歳：

人民摂政の実 858＝69歳：

・ ・ ・ ・ ・ 861＝72歳：

富士山噴火・ 864＝75歳：大僧都に昇り、この年設けられた僧綱位階の法眼大和尚を初めて授けられた。

応天門の変・ 866＝77歳：

・ ・ ・ ・ ・ 868＝79歳：

瞩目していた弟子賢応已講が卒して気落ちして病を得、大和国音石山寺に隠居したが、まもなく没した。釈迦入滅の時と同じように白雲十二道が庵上から山頂にかけてたなびいたという。